

■活動内容

○活動日・日時(2018年の場合)

サツマイモ植え付け 5月27日
水やり 5月28日～6月2日
収穫 11月3日
スイーツづくりと販売 11月24日

- 活動場所 湖南省柑子袋地先
- 活動メンバー 10代～80代の男女 20名
- 活動目的 イモ発電につながるサツマイモの空中栽培を行うことによる地球温暖化防止
- 活動内容 サツマイモの空中栽培
植え付け 150袋 16名



■団体名 もえポテト 代表者 荒川 萌希

■参加者 20名

■活動拠点
連絡先 湖南省柑子袋西
TEL：0748-72-8426
FAX：0748-72-2986



■活動のきっかけ・実現までの経緯

萌希(もえ)さんを中心とした10代～80代の男女20名で構成。メンバーは主に柑子袋区内の住民さんですが、区外の有志も参加しています。この活動のはじまりは、もえさんと、あるお年寄りとの出会いです。中学の時のいじめが原因で引きこもったもえさんのことで悩んでおられたお父さんが、区内に住む立入議員に相談にいかれました。一方で、ご主人を亡くされ、畑仕事を一人でやっておられたお年寄りが、水害に遭われ、気力を失われていました。そのお年寄りともえさんが、立入議員の仲立ちで出会い、二人の畑仕事が始まりました。

その後、立入議員が空中栽培の取り組みを知り、さらに仲間を募って、もえさんと一緒に取り組むようになりました。最初は挨拶もできなかったもえさんでしたが、徐々に畑仕事を楽しくなり、外にも出られるようになっていきました。お年寄りは畑仕事を手伝ってもらえることで助かり、また、私がこの子をなんとかしてやらないという使命感が生まれ、元気を取り戻されました。

その後、畑のお手伝いもやりながら、もえさんが中心になってイモ発電に賛同することになり、今は栽培して収穫したイモでスイーツを考案し、イベントなどで販売しています。ここまで3～4年かかりましたが、今では外の採卵の仕事にも行けるようになりました。

利用者さんの声

・みちくさコンパスや、地域や湖南省市でのイベントなどでもスイーツを販売し、好評を得ている。

活動者の声

・もえさんを中心に、イモの栽培と収穫、スイーツ作り、販売を行っている。メンバーは、さらに仲間を拡げ、サツマイモの栽培を拡げたいと意気込んでいる。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

もえさんが初めて野菜を収穫した時の顔が忘れられない！

湖南省市内の引きこもりの方が、もえさんのように、地域の人たちと一緒に農業に取り組み、自分の居場所をみつけ、地域のためになることをやることで、自信になればよいと思う。

イモ発電・空中栽培を推奨する湖南省市や「こなんイモ・夢づくり協議会」からも、農業・環境・エネルギー・福祉・就労・支え合いのまちづくりのモデルケースと高く評価されている。